

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275900213		
法人名	株式会社 相生		
事業所名	ゆうなぎ九十九里		
所在地	〒283-0102千葉県山武郡九十九里町小関2316番地1		
自己評価作成日	平成21年12月20日	評価結果市町村受理日	平成22年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アミュレット		
所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7F		
訪問調査日	平成22年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者それぞれに対しての個別ケアに力を入れている。日中は利用者9名に対し職員4名配置している
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、「家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりのペースに合った、その人らしい生活が安心して出来るようにすること」を理念として掲げ、職員間で理念を共有し、利用者が安心して生活できるよう職員が一丸となり取り組んでいる。地域とも良好な関係が築かれており、地域の方から地域情報が収集できる事で、近隣の行事等にも積極的に参加している。地域との関わりを深めることで、利用者の生活の幅を広げている取り組みは、理念にも掲げる、利用者が安心して生活できる支援につながっている。ホームの情報も、独自に作成した、ホームページで収集する事が可能であり、ホーム側からも積極的に情報を発信している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を玄関と職員の申し送りスペースに掲げ管理者と職員はその理念に基づいたケアが出来るよう取り組んでいる。	ホームでは、「家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりのペースに合った、その人らしい生活が安心して出来るようにすること」を理念として掲げ、職員間で理念を共有し、理念の実現に向けた支援が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方から町の行事に関する情報を頂いたり職員や利用者が積極的に地域の行事に参加している。	地域情報は、運営推進会議を通じて情報収集するほか、近隣の方から行事のお知らせの提供があり、利用者の状況に応じて、地域行事の参加を図り、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度のペースで開催している。会議内容は、ホームの行事報告や防災訓練の報告、ホーム独自の感染予防対策を報告している。また、参加者様より町内の行事のお誘いや畑の作り方を教えて頂いている。	運営推進会議は3ヶ月に一度のペースで実施されている。会議では、ホームの現況、取り組み状況のほか、感染症対策の報告、また、参加者からは畑の作り方を教えて頂くなど、相互のコミュニケーションを図り、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	九十九里町の健康福祉課とは運営推進会議等を通じて連携を取っている。また、運営推進会議の進め方等解らないことは聞きに行ったりしてよい協力関係を築けている。	市の担当職員との連携については、運営上疑問等が発生した際には、直接出向いて指示をもらうなど、互いに連携を図り、安定したホーム運営が図れるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が身体拘束に関する講習会に参加し、代表者及び全ての職員に当社独自の身体拘束に関するマニュアルを作成し、ケア会議の際に話し合っている。	県で主催する身体拘束防止に関する研修に管理者が参加をし、職員会議を通じ、全職員に周知している。また、職員入社時において、虐待防止に関する内容を周知するなど、不適切なケアの排除に取り組んでいる。	周知した内容については議事録、または研修会記録として残しておく事で、振り返りを図る際など有効的に活用できるものとする。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員入社時に高齢者虐待法について説明をしている。		

ゆうなぎ九十九里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護に関する講習会に参加した。現在、必要な人は居ないが、今後、必要な際には、家族と話し合ったうえで活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去の際、十分に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に無記名で記入できる「ご意見箱」を設置している。ご家族様に無記名で返信してもらうアンケートを送付した。家族来所持にコミュニケーションを図り、ご家族様から意見をいただいている。どれも必要に応じて運営に反映させている。	家族等が意見や要望を表出できるように、ホーム玄関先に意見箱を設置している。また、ホーム側から家族向けにアンケート調査を実施し、収集した意見を日々のサービスに反映するなど、積極的に取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議の際に代表者が参加するときもある。その際に意見交換を行い必要に応じて運営に反映している。	ホームでは、毎月一度職員会議を実施し、その際に、職員からの意見を収集している。会議には、法人代表者も出席する事もあり、会社の方針等全職員に周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に記載。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修の実施。社外研修の年度毎に計画し実施。社内研修については不定期に実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から、利用者の言葉に傾聴し、不安や心配事を取り除くために各専門機関とのコミュニケーションが取れるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況も把握した上で、必要に応じ利用者宅を訪問し、電話や信書等によるコミュニケーションを取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所が対応できる場合は、説明を重ね、理解と同意、確認を行っている。相談内容に応じた支援に努める。対応できない場合は、他のサービス利用のための情報提供やアドバイス、関係機関への紹介等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は必要以上に手を出すことはせず利用者の補助的存在であることを心掛けて、共に支えあい生活を送るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当制を採用し信頼関係を築けるよう努めている。また、電話や信書等で情報を伝達し、面会時にはコミュニケーションをとるよう努めている。年に2回行事を兼ねた家族会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特別な場合を除き、自由な面会が出来る。贈り物が届いたり電話や信書の交換等関係は継続されている。	入居後においても、馴染みの人との交流や場所との関係が途切れないように、面会は制限することなく家族や友人との交流が途切れないよう支援している。また、年に2回行事を兼ねた家族会を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが困難な方にあっては孤立しがちであるが職員が間に入り関係を構築できるよう努めている。支えあい、一緒に楽しんでいる場面も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談があったりする事がある。その際には必要に応じたアドバイスをおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向をできるだけ日常生活の中で聞き出し、希望に沿えるよう努力している。また、困難な場合は、家族に話を聞いたり、日々の生活の中で職員が見い出すようにしている。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話から聞き取るほか、直接聞き取ることが難しい利用者に対しては、家族から情報を収集し、利用者の意向や要望に応じた支援が図れるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族からこれまでの生活歴や生活環境について情報を得ている。本人とのコミュニケーションからも情報を得ることが出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務記録として、個々の日課表に水分量や排泄、ご本人の様子などを、会話を交えて詳しく記入するよう職員に働きかけている。また、申し送りにて皆が状況を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のケア会議で個々のモニタリングを行い、職員間での情報共有や意見を交わしている。ご家族についても面会や行事の際に要望を聞きだす努力をしたうえで作成している。	ケアプラン作成に関しては、利用者個々のモニタリングを通じ、状態を把握すると共に、本人、家族の要望、職員の意見を総合的に踏まえ、利用者の状況に応じたケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状態変化や対応について変更がある場合は、その都度回覧ノートで申し送り、必要に応じて介護計画書を変更するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望・要望にできる範囲で対応しているが、全員一緒の事が多いので、今後は個別ケアが実施できるようにしていきたい。		

ゆうなぎ九十九里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域婦人会との交流や地元の避難訓練の参加など、地域の方々より情報を頂き、できるだけ交流を深める努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の入院設備が整った病院へ定期受診している。歯科においては、訪問歯科診療を利用している。	病院への受診は、ホームの協力医療機関へ定期的な通院を実施し、日頃から医療機関と連携を図りながら、適切な医療を受けられる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算をとっていないため、受診の際に情報を得たり、また相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院に見舞いに行き、看護師に様子を伺ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の入居者に対しては、事前にご家族と話し合い、方向性を見出しご家族や本人の意向をふまえたうえで支援している。	重度化した場合や終末期に向けた方針や方向性に関しては、出来るだけ早い段階から方針を家族に伝えと共に、重度化や終末期を迎えた際には「急変時の対応について」家族と覚書を交わし、対応する事としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、書式にて全職員の対応の統一を図っている。応急手当や初期対応の訓練は行っていないため、今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、地元の消防署の立会いによる避難訓練を実施している。全職員の参加を促し、実際に消火訓練も行っている。	突発的な災害に備え、消防署立ち会いによる避難訓練を年2回実施し、消火器の使用法、避難誘導方法を身につけている。近隣との連携に関しては、運営推進会議で協力を要請しており、非常事態に備え対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンタードケアやバリエーションというコミュニケーション技術の研修を受け利用者の尊厳を損ねないよう職員間で意識を高め、気をつけています。	パーソンセンタードケアやバリエーションというコミュニケーション技術の研修を通じ、利用者への対応方法について積極的に学んでいる。習得した技術を職員間で共有し、不適切な対応にならないよう取り組んでいる。	今後においては、個人情報の利用目的を明確にすると共に、事業所の個人情報保護方針をホーム内に掲示する事が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを通じ、本人の思いを聞き出せるよう努めています。月一回のケア会議で話し合い実現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれにあった生活スタイルを把握した上で生活にメリハリがつくよう配慮している。個別の動きに合わせられる職員とそうでない職員がいるので常に指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症が重度の方で自ら選ぶことが出来ない方には、職員がその日にあったものを選ぶが、それ以外の方は自分で決めており自ら化粧や装飾品を身に付けるなど楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は、和やかな雰囲気を作るよう会話などをし努めている。準備や片付け、調理も出来るだけ利用者と一緒にを行うようにしている。	食事中は、職員も食卓を囲み、会話を弾ませながら楽しいひと時となっている。食事の準備や後片付けについても、利用者の状態に応じ、職員声かけのもと、利用者が主体的に取り組めるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事接種量は必ず記録に残し十分摂取できているか注意している。三ヶ月に一回は特別変わったことが無くても血液、尿検査を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い記録に残している。毎週水曜日には訪問歯科に来ていただき、定期的に診察して頂ける環境が出来ている。		

ゆうなぎ九十九里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁がある方でもオムツは使用せず、時間でトイレ誘導している。基本的に立位や座位がとれる場合は、トイレにて排泄につながるよう支援している。	職員一人ひとりが利用者の排泄パターンを把握しており、おむつ等に頼ることなく、時間に応じたトイレ誘導を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の理解を深めるため会議でも議題に上げ話し合っている。食事マニュアルを用意し、食物繊維を多く含む食材など多く取り入れられるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は日によって午前、午後など様々。基本的には2日に1回のペースだが、汗をかいた。失禁があった。などの場合にはその都度入浴している。	入浴については、利用者の要望に応じ、午前、午後問わず入浴が可能である。入浴中においても、利用者の状況に応じ、見守りや介助に職員がつき、安全に入浴できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に、疲れや傾眠が見られる際には、夜間の睡眠にひびかない程度に自室やソファなどで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があった際には必ず申し送り、効能や副作用については服薬リストを作り、各職員が確認し、理解している。薬は全て職員が管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ある程度、利用者それぞれに合った役割が決まっている。その日の状況によってはいつもと違った方に声掛けし、手伝って頂いている。レクリエーションや買物などは個別に行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	昨年は、ご家族が忙しので、墓参りに職員が同行したこともあり。天気が良い日には散歩に出掛けたり、月に一度、家族の要望もあり、防犯の意味も兼ね職員と自宅を見に行く利用者もいます。	天候の良い日には、近隣への散歩を取り入れ、近所の方と触れ合う時間を提供するほか、お花見や外食会の実施など、外出行事も取り入れ、戸外活動の充実に取り組まれている。	

ゆうなぎ九十九里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族の承諾を得てから所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	回数があまりにも頻回な場合には職員が説明し、自粛して頂く場合も在るが、基本的には利用者の意思を尊重している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった装飾品作成を利用者と一緒に行っている。月ごとに行ったイベントの写真を貼り利用者や面会者からも好評である。	リビングスペースや廊下の壁面には、利用者と共同で作成した作品や行事の際の写真を掲示している。また、畳スペースで家族や知人と過ごせる空間を設けている。廊下にも冷暖房が完備されており、居室との室温の差が生じないよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間や廊下にソファが置いてあり、思い思いの場で生活している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒などの危険がある場合には、職員が工夫し配置換えするときもあるが、家具の持込の制限は無く、本人の使用したいものを使用できる。	居室内において安心して生活できるように、これまで使い慣れた愛用品を持ち込みを可能とするほか、レイアウトに関しても、本人家族の要望に応じ、居心地良く生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており全面に手すりが設置されている。歩行に不安がある方には建物内でもシルバーカーなどの歩行器具を使用している。		